

ぶどう作りについて調べよう

～ぶどうのねだんのひみつ～

(総授業時数：10時間)

実施学年、教科など

第3学年 総合的な学習の時間

単元(題材)の目標

- ①出荷の時期によって、ぶどうの値段が変わること、また手間がかかるぶどうほど値段が高くなることに気づくことができる。
- ②「ぶどうづくりの仕事」について関心を持ち、自分が決めたテーマについて進んで調べることができる。
- ③調べ方、まとめ方、発表の仕方を学び、他の発表について自分の考えをもつことができる。
- ④良いぶどうを作るための農家の人の苦勞、工夫について気づくことができる。
- ⑤「働くこと」の大切さが分かり、自分に何ができるか考えて行動することができる。

学習の評価

- ①出荷の時期によって、ぶどうの値段が変わることが分かったか。また手間がかかるぶどうほど値段が高くなることに気づくことができたか。
- ②「ぶどうづくりの仕事」について興味を持ち、自ら決めたテーマについて意欲的に調べることができたか。
- ③調べ方、まとめ方、発表の仕方を学ぶことができたか。
- ④他の発表について自分の考えをもつことができたか。
- ⑤良いぶどうを作るための農家の人の苦勞、工夫について気づくことができたか。
- ⑥「働くこと」の大切さが分かったか。

展開の特色

本校の学区は笛吹市の他の地区と比較すると特にぶどう作りが盛んな地区である。その種類も高級品種が多く、巨峰、ピオーネ、甲斐路、キングデラなどを中心に生食用に生産している農家が多い。子どもたちが、朝、登校してくる途中にも多くのぶどう畑があり、農家の人が働いている様子を目にすることが多いようである。実際に農家の手伝いをした経験のある子ども半数近くいて、どんな仕事があるのか詳しい知識がある子ども数名いる。

本校の校内研では「もったいない」という言葉をキーワードにして研究を進めている。子どもたちへのアンケートでは「もったいない」という言葉から「消しゴムを無駄に使う、食べ物を残す」など、主に物質的なものを想起していることが窺われた。しかし、この言葉には、その物を完成させるまでの労力や思いなど「形には表れない大切なもの」に馳せる感謝の気持ちなども根本にあると言われる。秋の収穫には、それまでに費やした多くの作業などの思いがたくさん詰まっているはずである。この機会に良いぶどうができた時の農家の喜び、仕事のやりがいなどについて気づかせたいと思い本単元を設定した。

1学期は社会科の学習「まちをたんけんしよう」で、この学校の周辺にはぶどうのハウス栽培が多いことに気づくことができた。そこで、「ハウス栽培にするメリットについて」を題材にして、ハウス内の施設、仕事の中身など教師が様々な情報を与えて、農家の方に説明してもらいながら、「ハウス栽培のぶどうが露地栽培よりも高く売れる」ことを理解し、農家の工夫、苦勞について考えてきた。2学期は教室を出て、実際に畑に見学に行ったり、インタビューをしたり、本、インターネットなどで調べたりする中で、子どもたち自身に「ぶどうが出荷されるまでには多くの手間がかかっていること」に気づかせていった。また調べたことをお互いに発表し合い、質問、意見を出し合いながら活動させるようにした。

この単元のサブテーマの「ぶどうのねだんのひみつ」に関して、1学期は「出荷する時期を早くするとぶどうのねだんが高くなる」という視点だけで見えていたが、出荷するまでの手間、種類によって値段が変わること、売り物にならないぶどうになってしまうこともあることなどから、「ぶどうのねだん」にはそれまでの農家の手間や苦勞がすべて含まれていることに気づかせていきたい。

入門ガイド

小学校における入門ガイド

中学校(社会)における入門ガイド

中学校(技術・家庭)における入門ガイド

実践事例

幼稚園における実践事例

小学校における3学年実践事例

中学校における実践事例

高等学校における実践事例

資料

年間指導計画の例

資料

指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動
1	・「ハウスのぶどうづくり」について考えることができる。	○「ハウスのぶどうづくり」のメリットについて考える。 ・ハウスの設備について理解し、暖かくするためにハウス栽培をすることに気づく。 ・ほかの所より、早く出荷することのメリットについて考える。 ○ハウスのぶどうが高く売れるということが分かる。 ・ゲストティーチャー（保護者）の話聞き、ハウス栽培にすると高く売れることが分かる。
2	・「ぶどうづくり」の仕事について調べる見通しをもつ。	○グループごとに「ぶどうづくり」の仕事について調べる見通しを立てる。 ・「1年間の仕事について」、「ぶどうの種類について」、「出荷について」、「ふさ作り、ジベ処理について」(注1)の4つのグループに分けて調べることを決める。
3	・ぶどう作りの仕事を見学し、分からないことを質問する。	○近くの農家に見学に行く。 ・出荷の時期になったぶどう畑を見学し、農家の人に質問する。 ・出荷するまでの手間、かさかけ(注2)をする理由、銀色のシートが敷いてある理由について話を聞く。
4・5	・グループごとに「ぶどうづくりの仕事」について調べる。	○家の人に聞いたり、インターネット、図書館などで調べる。
6・8	・発表の仕方を工夫する。	○調べて分かったことをまとめる。 ・発表用の資料を準備する。 ・分かりやすく伝えるために発表の仕方を工夫する。
9(本時)	・「ぶどうづくりの仕事」について発表する。	○グループごとに発表をする。
	・他のグループに質問や意見を出す。	○他のグループに質問や意見を言う。
10	・手間をかけて育てた良いぶどうが高く売れることが分かる。	○ぶどうを作るまでにどうしてたくさんの作業があるのか考える。 ・高いぶどうの品種ほど手間がかかること、出荷する時にいい匂いについで包んでいることなどから、高く売ることが目的だということが分かる。
	・「ぶどうづくり」について振り返る。 ・これからの自分の生活と結びつける。	○良いぶどうを作るための農家の工夫、苦勞に気づく。農家の仕事のやりがいやお金を得るにはいろいろな苦勞があることを実感する。 ・自分の親の話と結びつけながら、働くことのやりがい、満足感などについて考える。 ・家の中で、自分ができるとは何か考える。

(注1)「ふさ作り」とは、ぶどうのふさの形を整えるときに、味の濃い実を作るために、ふさと実の数を減らす作業。「ジベ処理」とは、種なしのぶどうを作るために、ジベレリン（植物ホルモンの一種）の溶液にぶどうのふさを浸すこと。

金融教育の視点	指導上の留意点	その他(資料など)
◇物の値段が時期によって変わることを知る。	☆買う側ではなく、作る側の立場で考えさせる。	・VTR資料 ・ハウスの施設の写真 ・ゲストティーチャー
◇「ぶどうづくり」の仕事に関心をもつ。	☆ぶどう畑で働く人の写真などを提示して学習への興味を高める。	・ぶどう畑で働く人の写真
◇働いている場面を実際に見学し、農家の苦勞、工夫に気づく。	☆作物の出荷時期を考えながら、農家と打ち合わせて、見学に行く。	
◇具体的な仕事の内容を調べ、興味をもつ。	☆インターネット、図書館だけでなく、家の人や近所の人に聞いたことについても調べるように指導する。	
◇農家の仕事について、グループ内で情報交換をし、分かりやすく伝える工夫を考える。	☆分かりやすく発表できるように教師がグループごとに指導・支援する。	
◇農家の人が良いぶどうを作るためにたくさんの作業をしていることが分かる。	☆分かりやすく発表できるように支援する。	・「ぶどうづくりについて調べよう」(児童の記入例) 資料(→P.68) ・子どもたちが用意した資料
◇手間をかけてたぶどうが高く売れるということが分かる。	☆ゲストティーチャーとよく打ち合わせをしておく。	・ゲストティーチャー
◇ぶどうを作るための農家の工夫、苦勞に気づく。農家の仕事のやりがいやお金を得るにはいろいろな苦勞があることを実感する。 ◇家の仕事など、自分でできることは進んでやろうとする。	☆ぶどうを作る仕事、農家の仕事だけでなく、世の中にはやりがいのある仕事があって、みんな一生懸命に働いていることにも気づかせる。	・子どもたちが用意した資料の一部

(注2)「かさかけ」とは、雨や病気の感染からぶどうの実を守るために、ふさごとに傘紙をかけ、ホチキスなどで止める作業。

本時の展開

導入

展開

まとめ

学習内容	学習活動
○今日の学習のめあてについて知る。	・各グループごとの発表を行うことを知る(全4グループ)。 ・他の人の発表に質問、意見ができるように話す。
○各グループの発表をする。 ・1年間の仕事がたくさんあることに気づく。 ・ぶどうの種類が数多くあり、手間がかかるぶどうほど値段が高くなること分かる。 ・出荷するときには、一房ずついねいに扱い、きれいに包装することが分かる。 ・ふさ作り、ジベ処理を何回もして、形の良いぶどうを作らないと売り物にならないことが分かる。	○グループごとの発表の合間に、質問、意見を言う。 ・1班の発表(5分程度) ・2班の発表(5分程度) ・3班の発表(5分程度) ・4班の発表(5分程度)
○「良いぶどうを作るため」、「高く売るため」にこんなに手間をかけているということに気づく。	○ぶどうを作るまでにどうしてこんなにもたくさんの作業があるのか考える。 ・グループごとに考える。(5分程度)
○手間をかけたことによって売り物になる良いぶどうができたことが分かる。 ・「良いぶどうが穫れた時、高く売れた時が一番嬉しい」という農業のやりがいについて理解する。	○ゲストティーチャーの話を聞く。 ・調べ学習の中で、分からなかったことについてゲストティーチャーに質問する。
○ぶどうの値段には出荷するまでのたくさんの手間や苦労が含まれているということが分かる。	○ワークシートに授業で分かったこと、友達の良かったことなどを記入する。 ・友達の良かったことなどを発表する。

【本時の目標】

- ア 「ぶどうづくりの仕事」について分かりやすく説明ができる。
- イ 手をかけて育てた良いぶどうが高く売れることが分かる。

金融教育の視点	指導上の留意点	その他(資料など)
◇ぶどうづくりの仕事にはどんなものがあるか興味をもつ。	☆今日の授業について意欲づける。	・「ぶどうづくりについて調べよう」(児童の記入例) 資料 (→P.68)
◇「ぶどうづくり」の仕事には具体的にどんな作業があるのかを理解する。	☆それぞれの作業の目的について、必要に応じて教師が補足する。	・子どもたちが用意した資料
◇「良いぶどうを作るため」、「高く売るため」に多くの手間をかけているということに気づく。	☆グループごとに考えさせる。	
◇「良いぶどうが穫れた時、高く売れた時が一番嬉しい」という農業のやりがいについて理解する。	☆ゲストティーチャーに「良いぶどうが穫れた時、高く売れた時が一番嬉しい」という農業のやりがいについて強調してもらう。	・ゲストティーチャー
◇「ぶどうのねだんのひみつ」が分かる。 ・ぶどうの値段には出荷するまでのたくさんの手間や苦労が含まれていることが分かる。	☆机間指導をして、普段発言の少ない児童の発言を促す。 ・これからの活動について話す。	・「ぶどうづくりについて調べよう」(児童の記入例) 資料 (→P.68)

実践の記録

本時の授業では初めに今日のめあての「ぶどうのねだんのひみつ」について学習することを確認した。「いったいぶどうの値段には何が含まれているのでしょうか？みんなの発表を聞きながらいっしょに考えていきましょう」という教師からの指示にうなずいていた。

1班がまず「1年を通しての仕事」について発表した。剪定、ぶどうの木の皮むき、消毒、ジベ処理、出荷など、1年を通して、休みなく仕事があることを発表していた。

次に2班が「ぶどうのしゅるいについて」発表した。ぶどうの種類を色ごとに分けて紹介し、高いぶどうほど、手間がかかることを発表した。

それから3班が「しゅっかについて」発表した。JAの共撰場などで、大きさや品質ごとに出荷すること、巨峰などは、ていねいに包んで、きれいな箱に詰めて出荷することも発表した。4班は「ふさづくり、ジベしよりについて」発表した。紙の模型を実際に切って分かりやすく発表していた。この仕事をしないとぶどうの形が悪くなって、売り物にならないことも発表していた。

4つの班の発表が終わった後で、「ぶどうを作るまでにどうしてこんなにもたくさんの作業があるのか考えてみよう」と教師から発問があった。子どもたちから「ぶどうの形が悪くなってしまふから」、「おいしくなくなるから」、「売り物にならないから」などの発言があった。

最後にゲストティーチャーがその発問に答える形で説明をした。自分の畑で作っているぶどうの話、それを作るのに、どれだけの手間がかかっているのか、分かりやすく説明した。農家の人は、「苦勞して作ったぶどうが良い値段で売れた時が、本当に嬉しい。」ということも話し、子どもたちの質問（「どのぶどうが一番高くて、どんな手間がかかるんですか？」）にも答えていた。

授業の終わりに今日の学習で分かったことについてまとめ、学習カードに記入した。そして、教師からこれからの学習として「農家以外の人々がぶどうに別の手間をかけて高くすること（ワイン工場について）について学習することを告げて、授業を終えた。

(1) 成果

- ・ぶどうなどの青果は出荷する時期によって値段が違うということ、ハウス栽培は値段が高い時期に出荷することによって、利益を上げていることが分かった。
- ・ハウス栽培するには、多くの施設が必要なこと、たくさんの手間がかかることが分かった。
- ・ぶどうを出荷するまでに数多くの仕事があることを子どもたちが実感することができた。
- ・多くの手間をかけて、やっと売り物になる良いぶどうができることを理解することができた。

1班の発表「1年を通しての仕事」



剪定、ぶどうの木の皮むき、消毒、ジベ処理、出荷など、1年を通して、休みなく仕事があることを発表していた。

2班の発表「ぶどうのしゅるいについて」



ぶどうの種類を色ごとに分けて紹介していた。高いぶどうほど、手間がかかることを発表した。

- ・ぶどう作りの仕事について、グループごとに協力して、調べることができた。
- ・発表の場面で、ふさ作りのグループでは模型を作って実際にふさを切ってみたり、ジベ処理のコップを用意して、実演したりすることができた。また出荷のグループでは現物（箱に入れたぶどう）を見せたりしながら発表し、それぞれのグループで工夫が見られた。
- ・ゲストティーチャーが、3年生にも分かりやすく、簡潔に話してくれたので、効果的だった。
- ・この時間の学習から社会の学習に発展し、ワイン工場の見学の動機づけができた。

(2) より良い指導に向けて

- ・ハウスのぶどう作りについては子どもたちの発想が生産者側というよりも消費者側になりやすい傾向があり、「安くなってから買うように気をつけよう」という発言がみられた。農家の工夫をより強調していく必要があった。
- ・ぶどうの出荷時期を過ぎてしまったので、店頭に並んでいる実物を提示することができなかったが、本当に高いぶどうを用意すれば、子どもたちに大きな驚きを与えられたのではないだろうか。
- ・調べ学習の中で「どうしてふさ作りのような作業があるのか」とか「ぶどうの種類によって値段がちがうのか」、「高いぶどうと安いぶどうでは育て方がちがうのか」というようなことを、より深く追求させていくと「売り物になる立派なぶどうを作る」とか、「手間をかけたから、高いぶどうを作ることができた」という発想につながりやすかったのではないだろうか。
- ・調べたことを分かりやすくまとめて、発表するというような活動にまだ慣れていなかったため、まとめの書き方、発表の仕方など、もう少し指導した方が良いグループもあった。
- ・今回はぶどう畑の見学という場面を設定し、農家の様子を見ることができたが、子どもたちにもぶどう作りの仕事を実際に体験させてみると、より農家の仕事の苦勞、やりがいなどが実感できたのではないだろうか。

3班の発表「しゅっかについて」



JAの共撰場で、大きさや品質ごとに出荷することを発表した。巨峰などは、ていねいに包んで、きれいな箱に詰めて出荷することも発表した。

4班の発表「ふさづくり、ジベしよりについて」



ふさ作りとジベ処理について、紙の模型を使って、発表していた。この仕事をしないとぶどうの形が悪くなって、売り物にならないことも発表していた。

ゲストティーチャーの話



自分の畑で作っているぶどうの話、それを作るのにどれだけの手間がかかっているのか、分かりやすく話してくれた。農家の人は、「苦勞して作ったぶどうが良い値段で売れた時が、本当に嬉しい」ということも話してくれた。

入門ガイド
小学校における
入門ガイド
中学校(社会)に
おける入門ガイド
中学校技術・家庭に
おける入門ガイド
実践事例
幼稚園における
実践事例
小学校における
3学年
実践事例
中学校における
実践事例
高等学校における
実践事例
資料
金融教育に関する
年間指導計画の例
資料

入門ガイド
小学校における
入門ガイド
中学校(社会)に
おける入門ガイド
中学校技術・家庭に
おける入門ガイド
実践事例
幼稚園における
実践事例
小学校における
3学年
実践事例
中学校における
実践事例
高等学校における
実践事例
資料
金融教育に関する
年間指導計画の例
資料

資料 「ぶどうづくりについて調べよう」(児童の記入例)

児童の資料

「ぶどうづくりについて調べよう」
3年 氏名()

発表者	調べたこと
1ばん	1年を通しての仕事(しょうどく、ひりょう…)について
質問、感想、意見など	きまは仕事をしないところが「売れ物」にならない。
2ばん	ぶどうのしゅるいについて
質問、感想、意見など	
3ばん	しゅっかについて
質問、感想、意見など	ジベとかせんていをしていないところが「ぶどうのつぶ」がわるくなる。
4ばん	ふさづくり、ジベしよりにについて
質問、感想、意見など	仕事をしないと虫に食べられたり、「ぶどう」のつぶがわるくなってお金にならないから

今日の授業でわかったこと(ぶどうを作るまでにどうしてたくさんのお仕事があるのか)

他のグループの良かったところ、全体的な感想など

とてもくふうがしてあってすごくわかりやすくしているほんもあった

入門ガイド
小学校における入門ガイド
中学校(社会)における入門ガイド
中学校技術・家庭における入門ガイド
実践事例
幼稚園における実践事例
小学校における実践事例
3年
中学校における実践事例
高等学校における実践事例
資料
金融教育に関する年間指導計画の例
資料